

## 第9回 日中韓物流大臣会合共同声明

天津

2024年2月29日

1. 我々、中国、日本、韓国の物流担当大臣は、第9回物流大臣会合のため、2024年2月29日に天津で会合した。
2. 冒頭の挨拶で、我々は、日中韓物流大臣会合という機構が、物流における三国間協力を促進する上で重要な役割を果たしていると強調し、前回の大臣会合以来の行動計画の進展を評価し、将来のより具体的な協力と成果を奨励した。
3. 三国は、交通および物流における協力を強化することにより、国際経済及び貿易の発展に貢献する上で重要な役割を果たすべく引き続き協力する。
4. 我々は、本物流大臣会合にて、主要目標にしたがって行動計画を更新することによって、三国間協力をさらに促進した。
5. 三国が共同して取り組む行動計画は、「強靱な物流ネットワークに向けた三国間における協力と調整」と「物流DXの推進」となっている。残りの行動計画は日中韓で各国が担当する分野を主導する。
6. 中国は、「相互接続された物流情報ネットワークの構築と拡大に向けた取組」、「北東アジアにおける複合一貫輸送のベストプラクティス共有と共同開発」、及び「港湾分野での緊密な協力関係の促進」を引き続き主導する。
7. 日本は、「輸送機器の標準化」、「シームレスな物流システム実現に向けた取組み」、「環境にやさしい物流政策の導入」を引き続き主導する。
8. 韓国は、「物流の安全性と効率性を両立させるための施策」、「北極圏の持続可能な海運・物流に関する情報共有・協力の促進」、「日中韓のコールドチェーンネットワークの促進」を引き続き主導する。

**9. 強靱な物流ネットワークの推進**

新型コロナウイルス感染症のパンデミックは、グローバルサプライチェーンにおける物流の重要性を浮き彫りにした。我々は、人々の生活や経済活動等を支え、物流の最前線でサプライチェーン確保のため献身的な努力をされてきた物流従事者に心からの感謝と敬意を表する。

9.1 我々は、三国間の協力の強化を通じて、強靱な物流ネットワークの確保に努める。我々は、この目標の実現を阻害する課題に三国で協力して対応するために国際物流政策における連携の重要性を認識し、各国の担当官に対し、国際・国内物流政策の経験及びベストプラクティスの共有を継続的に行うよう促す。

9.2 物流システムの安全性と効率性の両立を追求する。そのために情報共有、技術研究、関連分野における経験共有を図っていく。

## 10. シームレスな物流システムの実現

技術革新の進展や新型コロナウイルス感染症による新しい生活様式の普及を受けて、第1回物流大臣会合から我々が取り組んできた物流のシームレス化はますます重要となっており、継続的に取組を進めることが有益である。

10.1 我々は、自動化・デジタル化を通じて物流のあり方を変革する「物流DX」の重要性を認識し、交通及び物流部門の発展を促進し、この分野において三国が主導的役割を果たせることを確実にする。

10.2 我々はトレーラーシャーシの相互通行が陸上輸送と海上輸送を結び付け、物流の効率と速度を向上させる上で重要な役割を果たすことを認識した。したがって、三国は将来的に海陸一貫輸送トレーラーシャーシの三国間アクセスの実現に努める。

10.3 我々は、NEAL-NET 物流情報共有サービスを継続的に改善・推進し、情報共有港の数を増やし、より多くの情報共有サービス領域を開拓し、北東アジアにおけるNEAL-NET の普及を促進し、国境を越えた複合一貫輸送に関する共同研究を開始し、国際交流・協力を着実に推進する。

10.4 三国は、コンテナの海陸複合一貫輸送分野に関する今後の協力の方向性を見定めるため、海陸複合一貫輸送の現状・課題を調査し、情報を共有する。

10.5 我々は今後も北東アジア地域におけるシームレスな物流システムの実現に貢献するため、パレットの標準化を推進し、継続的に協力していく。アジアパレットシステム連盟（APSF）と共に標準パレット普及に継続的に努めるとともに、リターナブルコンテナの標準化の可能性についての研究を推進する。

10.6 世界的なコールドチェーン物流ネットワークが拡大しており、生鮮食品の三国間貿易が増加していることに留意し、我々は、生鮮食品の安全性と品質を確保する

ためにコールドチェーンネットワークを円滑化する必要性を認識する。これは食品廃棄物を削減し、国連の持続可能な開発目標 (SDGs) の達成に貢献すると認識する。そのために関連情報を共有し、共同研究を推進していく。

## 11. 環境にやさしい物流の構築

SDGs の必要性の高まりを受けて、我々は環境にやさしい物流の構築に努める。我々は、地球温暖化が共通の課題であることを認識する。この点において、我々は、この大臣会合の下で実施される様々なプロジェクトが、環境にやさしい物流の構築にとって重要な意味を持つと認識している。我々は、環境にやさしい物流に関連するこのようなプロジェクトを推進するために、三国の政府間、および業界間の協力を強化していく。

11.1 我々は、環境にやさしい物流を構築する方法を模索する。我々は、モーダルシフトの推進を通じた更なる物流の効率化や、交通および物流における低炭素化・脱炭素化の促進等を通じて、環境の持続可能性の確保に取り組む。

11.2 我々は、リターナブル物流容器 (RTI) の利用は、環境にやさしい物流システムに大きく貢献するものと認識し、RTI の利用拡大を阻害する課題の解決に向けて協力していく。

## 12. その他の関連分野

12.1 我々は、三国間協力を進める上での日中韓三国協力事務局 (TCS) の役割を再確認し、三国間の交通および物流の仕組みへの TCS のより幅広い参加を支持した。

12.2 我々は、2021 年以來の公式ウェブサイトの順調な運営及び維持に対する TCS の支援に感謝した。これは、三国の関連政策や研究の共有、および三国の国民の物流大臣会合の情報への容易なアクセスに役立つ。

12.3 我々は、TCS が、三国間の協力と調整を円滑化する三国間の関連プロジェクトや活動を通じて、三国間の交通・物流機構や行動計画に引き続き貢献することを期待した。

13. 日本の国土交通省及び韓国の海洋水産部は、中国の交通運輸部に対し、本物流大臣会合の開催に感謝の意を示した。

14. 次回の物流大臣会合は、2025 年に韓国が主催する予定である。